


【件名】	路面補修工事（4北北の5）	【事務所名】	北多摩北部建設事務所	
【工事場所】	東京都立川市緑町地内から同市泉町地内 （一般都道立川昭島線（第153号））	【受注者名】	ピュアロード株式会社	
【工期】	令和4年7月25日から令和5年2月16日まで	【主たる技術者名】	監理技術者 馬場 博之	

【工事概要】

本工事は、上り線で道路打換工、下り線及び転回路で切削オーバーレイ工を行うものである。

工事延長 532.64m

上り線：道路打換工（厚25cm） 3,526m²

下り線：ICT切削オーバーレイ工（厚10cm） 3,730m²

転回路：切削オーバーレイ工（厚10cm） 917m²

【表彰理由】

本工事は、路面補修工事で初めて3次元マシンコントロール技術搭載の切削機を用いたICT路面切削工を行った。受注者は、切削機後方に計測班を追加配置し、切削厚をダブルチェックしながら円滑に作業を進め、定められた時間を超えることなく切削オーバーレイ工を完了した。また、道路打換工における舗装版破碎時の飛散防止対策として、切削工法を提案し、作業日数を短縮して無事故で工事完了した。さらに、ICT工事の普及に資する取組として、現場見学会において、本工事の取組や得られた知見等を資料にまとめて発表し、現場で切削作業中の自動制御や出来形管理の解説等を行った。



施工前

施工後

【受注者の声】

◇ 苦労した点

3次元マシンコントロール技術搭載の切削機を用いたICT施工という初めての試みに、建設事務所の方々からも大きな関心を持っていただけたことで、ICT施工技術ならびに現場見学会を開催することができました。しかしながら幅員が決して広くは無いバス通りで速度超過の車両も多い路線での見学会ということもあり、タイムスケジュールに気を配りながらも安全対策に細心の注意を払うことに苦労しました。

◇ 特に工夫した点

車道幅員が一車線3.25mと狭い中での打換基層開放という施工では、舗装版積込時の廃材飛散またはすりつけ舗装段差による第三者事故災害リスクを回避するため、切削機を用いた打換を行いました。これにより第三者事故災害につながるようなリスクを大幅に低減することができました。

◇ 現場で得られたやりがいや達成感

建設業界は年々、新技術や新工法を産み出しながら更新され続けていく中、東京都での積極的な活用が難しいとされてきたICT施工技術の活用を取り入れ、完工できたことに達成感を感じています。

◇ 建設業の将来を担う若手技術者や学生に対し伝えたいこと

新たな発想が建設業界をさらに飛躍させていく時代かと思えます。それだけ工夫できる要素が沢山あるため、柔軟な発想と熱意を持って取り組むことが大切だと思います。



現場見学会の様子